

令和2（2020）年度 第2回子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和2（2020）年12月25日（金） 14:00～15:34
- 会 場 元気館1階 「きりん」プレールーム
- 出席委員 植木会長、宮下副会長、小黑委員、木下委員、川本委員、大倉委員、
佐野委員、松谷委員、小林委員、村井委員 10人
- 欠席委員 北澤委員、西巻委員 2人
- 事務局 小林子ども未来部長
（子育て支援課）小池課長代理、小山係長、石橋係長、砂塚主査、武田主事
（保育課）田辺課長、栗林課長代理、力石係長
（子どもの発達支援課）中村係長
（福祉課）西巻係長 11人

1 開会 司会：子育て支援課主査

2 挨拶 会長
新型コロナウイルス感染症防止対策のため省略

3 議題 司会進行：会長

(1) 小規模保育事業の定員について

資料1「小規模保育事業について」に基づき、事務局より説明

委員 【補足】長野県須坂市及び長岡市の小規模保育を見学させてもらい、勉強させてもらった。保育料無償化により働きながら子供を育てたい方や在園しているきょうだいで早めに入園したいという希望があるが、なかなかニーズに応えることができていない。この機会に年数回しか利用しない一軒家（陶芸館）を、子供たちのために活用できないかと考え、このような話を進めている。

意見及び質問なし。

小規模保育事業の定員について、全会一致で異議なし。

(2) 第二期柏崎市子ども・子育て支援事業計画（中間報告）について

総括表（令和2（2020）年度取組状況・予定）に基づき各担当者より説明

・総括表1～5 ①、② 教育・保育給付、地域子ども・子育て支援事業について

事務局：①施設型給付、幼稚園・認定こども園・保育園

②地域型保育給付、小規模保育・家庭的保育・居宅訪問型保育・事業所内保育

(1)一時預かり事業

(2)延長保育事業

(3)病児保育事業 について説明

委員 別紙3の一時保育アンケートの集計結果のとおり、一時保育を利用しなかった理由として、少数であるが、「手続きが面倒」「制度を知らない」ということがある。アンケート結果の通知やその他の通知を通して周知していくことが必要であると思った。

委員 コロナ禍により、外来の患者が3～5割減少している。同じように病児保育も減少している。1人当たり何円と決まっているので、全国の病後児保育では経営が厳しく、辞めてしまうところも出てきている。新潟病院は持ちこたえることができるのか。また、総合医療センターの病後児保育も大丈夫なのか。

小児科と産婦人科の医師になる人がいない。また、お産ができる病院が、市内には総合医療センターしかなくなる。産婦人科の医師が減少しているため、長岡市に一極集中させる話もあるため、10年後には市内にお産ができる場所なくなる可能性がある。

委員 市内の医療事情がよくわかった。
病後児保育事業について、新潟病院から要望等が上がってきているか。

事務局 9月に新潟病院を訪問し直接話を伺った。その際には、財政的に困っているという話はなかったが、今後のコロナウイルス感染症の感染状況については、かなり心配されていた。今後も病後児保育事業が継続できるよう、新潟病院と協議をしていきたい。

委員 突然やめないように、こまめな情報交換をしていただきたい。

委員 延長保育事業について、1,108人の減少とのことだが、これもコロナウイルス感染症の影響があるのか。

事務局 コロナウイルス感染症の影響もあると思うが、毎年減少傾向にある。

・総括表6～12 地域子ども・子育て支援事業について

事務局：(4)利用者支援事業（母子保健型）

(5)妊婦健康診査

(6)妊産婦・新生児訪問及びこんにちは赤ちゃん事業

(7)乳幼児健康診査

(8)児童虐待防止事業

(9)家庭児童相談事業

(10)養育支援訪問事業 について説明

委員 家庭児童相談事業について、コロナ禍で虐待が増加しているという話だが、家庭児童相談員3人で対応しきれているのか。

事務局 個々の状況によりアプローチの頻度が違うので、余裕がないながらもなんとか対応している状況である。

また、コロナ禍の影響によりイレギュラーの相談も増加しているなど、相談件数が高止まりしており、忙しさに途切れがない。

委員 3人の相談員に対し過度に負担がかかるようであれば、労務管理も含め対応していただきたい。

・総括表13～16 地域子ども・子育て支援事業について

事務局：(11)養育支援事業（産後等の家事支援）

(12)子育て短期支援事業

(13)ファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）

(14)地域子育て支援拠点事業 について説明

委員 養育支援事業及びファミリー・サポート・センター事業について、シルバー人材センターから協力していただいているが、どのような方が携わっているのか。

事務局 シルバー人材センターに会員登録して活動されている方である。

委員 地域子育て支援拠点事業について、コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、子育て支援室を閉室していたが、徐々に開室していると聞いている。コロナウイルス感染症を理由に利用をためらっている方はいるのか。

事務局 子育て支援室は、11月末現在、公立は全て開室しており、私立は一部閉室している状況である。コロナウイルス感染症を理由に利用しないという声は聞いていないが、4～5月の緊急事態宣言の間に利用できなかった利用者からは、開いていて良かったという声がある。利用を躊躇している利用者には、工夫しながら利用していただくよう発信していきたい。

事務局 子育て支援室のニーズはあるが、コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、市が閉室をさせたという状況である。利用者からは利用したいとの声をいただいていたが、利用者が不特定多数、かつ妊産婦の利用も多いということから、リスク回避のため、4～5月はやむなく閉室した。

ジャングルキッズは、県の警報発令に伴い利用を中止している。感染状況を確認しながら、利用を再開させたい。

委員 コロナ禍でもニーズはあるということ。ニーズがある限りはリスクを考慮しながら、いかに再開できるか検討し続けるということではないか。

委員 ファミリー・サポート・センター事業の新規会員募集の啓発についての提案だが、学校や習い事教室で情報提供をしたらどうか。理由は、小学校の親子活動に未就学児を連れて来られる方がおり、下のお子さんを預けて来ればいいのかと思うことがあるからである。3歳以下ならばスターチケットも使えるので、お子さん一人一人に向き合う時間を作るためにファミリー・サポート・センター事業を利用していただきたい。

事務局 妊娠時、出産時にファミリー・サポート・センター事業についての説明資料を配付しているが、どのタイミングで発信していくことが効果的なのか、係を横断して検討していきたい。

委員 提供会員及び利用会員、それぞれの課題があるので複雑である。提供会員の確保は、ずいぶん前から課題になっているところでもある。広報かしわざきの記事は、提供会員及び利用会員、両方の会員募集の記事であるのか。

事務局 両方である。写真入りで、提供会員の活動内容を報告するのと併せて、利用会員の声をインタビュー形式で掲載した。

・総括表17～22 地域子ども・子育て支援事業について
事務局：(15)放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

- (16)子どもの遊び場整備事業
- (17)（仮称）子育て応援券事業
- (18)医療費助成事業
- (19)実費徴収に係る補足給付を行う事業
- (20)多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業 について説明

委員 子育て応援券事業だが、全対象者に発送済みということか。

事務局 秋に令和3（2021）年3月31日現在で3歳以下である全乳幼児を抽出し発送を行った。その後、出生や転入があった乳幼児は、月末で抽出をかけ、翌月に発送を行っている。

委員 放課後児童クラブについてだが、市内小学校でコロナウイルス感染症のクラスターが発生した際における当該地区の児童クラブの対応を教えていただきたい。

事務局 小学校の臨時休業に合わせ、児童クラブも閉所した。また、学校の再開に合わせて、児童クラブも開所した。

会長 全体を通して意見などはあるか。

委員 コロナ禍の影響により、園でも一番深刻なのが虐待である。
育児に困っている親を責めるのではなく、サポート、支援する姿勢で対応しているが、うまく伝わらない場合もある。良い対応があったら御教示をお願いしたい。

事務局 早めに対応することが重要と考える。一方で、不確定な状況で動くのは危険を伴う。客観的な状況を確認の上で、早急な対応が必要である。
少し様子がおかしいと感じたら、午前中に連絡をいただくことで、早期支援が可能となるので、今後も早めの情報提供をお願いしたい。

委員 保育所や保育士の研修で、虐待の具体的な事例のシミュレーションを行ったり、情報を共有したりすることはないのか。

事務局 年度初めの園長会議に伺いお話をしている。ただし、令和2（2020）年度はコロナ禍により、集合しての研修が例年どおりできていない。なお、本日、小学校教諭及び保育士を対象とした県開催の研修会が行われている。市としては、県の研修と重ならないようにしながら、研修を実施していきたいと考えている。

委員 専門職に対する研修では、虐待や虐待の恐れがある子供を発見したら、市町村窓口、児童相談所、福祉事務所などに速やかに通報をしてほしいという、通報までのプロセス研修は行う。しかし、通報以降のプロセスの研修はあまりないように思う。通報以降の流れがわかることは、現場の先生にとって有意義なことだと思ったので、可能であればそのような研修を開催していただきたい。

委員 市内小学校でコロナウイルス感染症のクラスターが発生した時、市立と県立の小・中学校から保護者に届いた情報の内容と時期が全く違っていた。情報の内容で対応が変わってくると思う。そのため、情報が届いてない人の行動に対し、非常識だと思う人も出てくると思う

し、差別につながっていくと思う。

今後、非常時には、市立でも県立でも同じ内容の情報が届くようにしていただきたい。

事務局 正確な情報を迅速に伝えるということを行っているが、伝達の方法が限られている。公立の小・中学校であれば保護者一斉メールを送付できるが、保育園にはない。そのため、来年度から保育園でも保護者一斉メールを送れるよう準備をしているところである。これから、公立でも私立でも同じ情報が共有できるよう研究してまいりたい。

事務局 保育園、認定保育園、幼稚園に関して補足したい。保育については、市から私立に委託をして事業を行っていただいている。コロナに関する公立保育園の対応については、随時、私立保育園などに情報を提供している。

市内小学校でクラスターが発生した際は、保育園の保護者への通知を小学校の一斉メールを利用して通知をした。

今後も他のツールを利用しながら、情報提供を行っていききたい。

委員 市立と県立の小・中学校の情報連携をお願いしたい。

委員 現在、里親を引き受けているが、ロングランはどのようなところなのか。泊まりの子供たちがいるところなのか。

事務局 児童福祉施設である。入所及びデイサービスも行っている。現状は、年齢が低い子供たちを預かるのは厳しい現状があるため、里親にお願いしている実情がある。

委員 子供を預かることがあるが、急に離されると「ママ、ママ」と泣いてしまう子が多い。預けたママも方も心配になって、早く迎えに来る母親もいた。子供の面倒を見てくれる人がいて、かつ母親は別の部屋で休むことができるという、母子ともに宿泊できる施設があったら良いと思った。

事務局 子育て短期支援事業は、平成30年度からの事業であり、形が確立されていない。利用者などに聞き取りを行い事業に反映していききたい。

4 その他（連絡事項等）

事務局：報酬は1月21日（木）に交通費と合わせて振込みとなる。次回の会議については、3月に開催予定である。詳細が決まり次第連絡する。

5 閉会 子ども未来部長

委員の皆様におかれましては、闊達な御意見をいただき感謝申し上げます。本日いただいた御意見等を参考に事業を進めていく。

新型コロナウイルスに関して、県が警報を発令している。気をつけていただきたい。時節柄、忙しい時期でもあるが、御自愛のうえ良い年を迎えていただきたい。以上で会議を閉会する。